

教職課程修了時における養護教諭としての 資質・能力に関する一考察

－養護教諭養成課程コアカリキュラム「養大協版コアカリ 2020」を活用して－

大 川 尚 子 岩 崎 保 之
(京都女子大学 発達教育学部) (関西大学 文学部)

【抄録】

養護教諭としての使命感と児童生徒への愛情を深め、養護教諭としての資質・能力を向上させる意欲を持つとともに、児童生徒の健康課題を理解し、他者と協働して課題解決に取り組む資質・能力を身に付けることができているかを評価するために、養護教諭養成課程コアカリキュラム「養大協コアカリ 2020」がどのくらい達成できているかを、教職課程修了時として教職実践演習(養護教諭)を受講している学生を対象に調査したところ、以下の結果が得られた。

1. 養護教諭として仕事をしたいと思っている学生とそれ以外で比較すると、「養大協コアカリ 2020」の全体の理解度には差がみられなかった。
2. 養護教諭としての自信度で比較すると、「養大協コアカリ 2020」のⅠ群からⅣ群の全体の平均では、自信高群は自信低群に比べてⅠ・Ⅱ・Ⅲ群では高い傾向がみられたが、Ⅳ群では有意な差はみられなかった。

キーワード：教職課程修了時、養護教諭、養大協版コアカリ 2020、日本養護教諭養成大学協議会

1. はじめに

近年、グローバル化や情報化などの急速な進展に伴い、子供を取り巻く社会状況や家庭状況は大きく変化し、子供の心身の健康課題は多様化、複雑化している。養護教諭の養成教育においても、これらの変化や諸課題に的確に対応できる専門的知識・技術を基盤とした教育実践力をもつ養護教諭養成が求められている。

養護教諭養成課程を持つ大学で組織された「日本養護教諭養成大学協議会」では、養護教諭の実践に必要な力を可視化し、養成教育の質を高めることを目的に、学問体系や大学の枠を超えたどの大学においても適用することのできる養護教諭養成課程コアカリキュラムの研究と作成に取り組み、協議会独自の「養護教諭養成課程コアカリキュラム(養大協版) 2020(以下、養大協コアカリ 2020)」を2020年度に開発し

ている¹⁾。「養大協コアカリ 2020」では、養護教諭養成課程において卒業時に必要な力を明示している。全国の養護教諭養成課程では、多様な学問体系で養護教諭を養成していることから、各都道府県・政令指定都市の養護教諭の育成指標も参考にし、大学教育の枠、学問体系の枠をこえて、どの大学でも活かすことができ、養成と採用をつなぐ系統性のあるコアカリキュラムとなっている。

養護教諭としての使命感と児童生徒への愛情を深め、養護教諭としての資質・能力を向上させる意欲を持つとともに、児童生徒の健康課題を理解し、他者と協働して課題解決に取り組む資質・能力を身に付けることができているかを評価するために、「養大協コアカリ 2020」の全体目標・一般目標・到達目標がどのくらい達成できているかを調査し、今後の本学の養護教諭

養成課程の授業に活かすことを目的とした。

2. 対象と方法

教職課程修了時として、2021年12月に教職実践演習（養護教諭）の授業中に受講学生47名に無記名調査を依頼した。調査はGoogleフォームを用いてデータ収集を行った。回答が得られたのは32人（回収率68.1%）であった。

内容は、2022年4月に養護教諭として勤務をするかどうか、養護教諭としての自信の有無と「養大教コアカリ2020」の全体目標・一般目標・到達目標がどのくらい達成できているかを5件法で調査した。参加・不参加によって利益や不利益が生じることはないことを確認し、調査への回答を持って同意したものとした。

なお、「養大協コアカリ2020」で使用した「養護実践」とは、児童生徒等の心身の健康の保持増進によって発育・発達の支援を行うために、養護教諭が目的を持って意図的に行う教育活動である。養護教諭の専門性を生かしたあらゆる活動は「養護活動」とも言われ、その中でも特に、目的意識を持って意図的に対象に働きかける教育活動を「養護実践」という（日本養護教諭教育学会）²⁾。

3. 結果

(1) 取得予定免許（複数回答）

養護教諭32人（100%）、家庭科教諭3人（9.4%）、社会福祉士（国家試験受験予定）15人（46.9%）であった。

(2) 2022年4月以降の希望

養護教諭（正式採用）は6人（18.8%）、養護教諭（講師希望）は10人（31.3%）、大学院進学1名（3.1%）福祉関係7人（21.9%）、一般企業4人（12.5%）、その他（12.5%）であった。

(3) 養護教諭の自信度（5件法）

5件法で1（自信なし）～5（自信あり）の結果では0人（0.0%）、2が16人（50.0%）、3が13人（40.6%）、4が3人（9.4%）、5が0人（0.0%）であった。

(4) 「養大協コアカリ2020」の項目比較

「養大協コアカリ2020」の全体目標・一般目標・到達目標を1（理解していない）～5（理解している）、1（身に付けていない）～5（身に付けている）のように5件法で回答を求めた。

① 養護教諭希望とそれ以外での比較

養護教諭として仕事をしたいと思っている学生16人とそれ以外の16人で、「養大協コアカリ2020」の各項目の平均値を比較した。その結果を表1-1・2・3・4に示す。

全体の理解度には差がみられなかったが、I群の到達目標「②養護教諭の歴史や制度（関係法規を含む）について理解している。」「⑤学校教育における子供の発育・発達及び健康への支援と生涯保健との関連を理解している。」「⑤学校と家庭及び地域との連携・協働の意義、コーディネーターとしての役割について理解している。」では有意な差が見られた（ $p<0.05$ ）。

また、Ⅲ群の一般目標「2）保健室経営の意義と目的をふまえた上で、保健室経営計画の作成方法を理解する。」、Ⅳ群の到達目標「①心身の状態を総合的に評価し、緊急度・重症度を踏まえて対応することができる。」でも有意な差がみられた（ $p<0.05$ ）。

② 自信度での比較

養護教諭自信度2の16人を自信低群、それ以外の16人を自信高群とし、「養大協コアカリ2020」の各項目の平均値を比較した。その結果を表1・2・3・4に示す。

I群からⅣ群の全体の平均では、I・II・Ⅲ群に自信高群は自信低群に比べて、高い傾向がみられた。Ⅳ群では有意な差はみられなかった。I群では、全体目標「学校保健活動の中核的な役割を果たすための養護教諭の専門性を理解する。また、養護をつかさどるための基礎的・基本的事項について理解する。」、到達目標「③発育・発達の考え方について理解している。」「⑥社会や学校における多様性について理解している。」「②学校保健計画の意義と内容について理解している。」について有意な差がみられた（ $p<0.05$ ）。

Ⅱ群では、到達目標「⑤高次脳機能のしくみ

（脳の構造と認知や行動などの機能）と発達過程について理解している。」「②子供の健康と家庭との関わりについて理解している。」「4）発達過程に応じた子供の支援について理解する。」について有意な差がみられた（ $p<0.05$ ）。

Ⅲ群では、全体目標「養護実践を展開するために必要な知識と方法を理解する。また、基礎的な技術を身につける。」（ $p<0.01$ ）、一般目標「5）保健教育の意義と目的をふまえた上で、その内容と指導方法を理解する。」（ $p<0.05$ ）、到達目標「②子供の生涯にわたる健康の保持増進に必要な保健教育の内容と指導方法及びその

評価について理解している。」（ $p<0.05$ ）について有意な差がみられた。

Ⅳ群では、一般目標「1）子供の心身に関する情報の収集と管理を行い、関係者と情報共有する意義と方法を説明できる。」（ $p<0.05$ ）、到達目標「②子供に共感的態度でかわわり、心身の情報等から子供の健康状態を把握することができる。」（ $p<0.001$ ）、「③人権やプライバシーに配慮した健康相談や保健指導の場面や方法を列挙することができる。」（ $p<0.05$ ）について有意な差がみられた。

表1 【Ⅰ群】養護及び養護教諭に関する基礎的理解の各項目の平均値

I 群	項 目	全体 n=32	養護教諭 n=16	以外 n=16	p	自信高 n=16	自信低 n=16	p
全体目標	学校保健活動の中核的な役割を果たすための養護教諭の専門性を理解する。また、養護をつかさどるための基礎的・基本的事項について理解する。	3.53	3.44	3.63		3.81	3.25	*
一般目標	1) 養護の概念、養護教諭の役割と職務内容を理解する。	4.00	4.13	3.88		4.19	3.81	+
到達目標	①養護の概念について理解している。	3.53	3.63	3.44		3.75	3.31	
	②養護教諭の歴史や制度（関係法規を含む）について理解している。	3.13	3.50	2.75	*	3.19	3.06	
	③養護教諭の職業倫理について理解している。	3.88	3.81	3.94		4.13	3.63	+
	④養護教諭の役割や職務内容について理解している。	4.06	4.00	4.13		4.19	3.94	
	⑤養護実践の意義について理解している。	3.84	3.88	3.81		3.94	3.75	
	⑥養護教諭のキャリア形成について理解している。	3.13	3.06	3.19		3.19	3.06	
一般目標	2) 子供の人権、発育・発達観、健康観に関する基礎的・基本的事項を理解する。	3.47	3.50	3.44		3.44	3.50	
到達目標	①人権とその擁護について理解している。	3.91	3.88	3.94		4.00	3.81	
	②子供の人権保障について理解している。	3.84	3.81	3.88		3.94	3.75	
	③発育・発達の考え方について理解している。	3.72	3.75	3.69		4.00	3.44	*
	④健康及びヘルスプロモーションの考え方について理解している。	3.72	3.75	3.69		3.88	3.56	
	⑤学校教育における子供の発育・発達及び健康への支援と生涯保健との関連を理解している。	3.47	3.81	3.13	*	3.75	3.19	+
	⑥社会や学校における多様性について理解している。	3.75	3.69	3.81		4.00	3.50	*
一般目標	3) 学校保健・学校安全の基礎的・基本的事項を理解する。	3.59	3.63	3.56		3.75	3.44	
到達目標	①学校保健の意義及び領域と構造について理解している。	3.63	3.81	3.44		3.75	3.50	
	②学校保健計画の意義と内容について理解している。	3.72	3.81	3.63		4.13	3.31	*
	③学校安全の意義及び領域と構造について理解している。	3.47	3.38	3.56		3.50	3.44	
	④チームとしての学校における組織活動の意義について理解している。	3.84	4.06	3.63		4.00	3.69	
	⑤学校と家庭及び地域との連携・協働の意義、コーディネーターとしての役割について理解している。	3.88	4.19	3.56	*	4.00	3.75	
	⑥保健室経営の意義と養護教諭の専門性について理解している。	3.81	3.94	3.69		4.00	3.63	
I 群平均		3.68	3.75	3.61		3.84	3.51	+

$p<0.1$: +, $p<0.05$: *

表 2 【Ⅱ群】子供と子供を取り巻く環境の理解の各項目の平均値

Ⅱ 群	項 目	全体 n=32	養護教諭 n=16	以外 n=16	p	自信高 n=16	自信低 n=16	p
全体目標	養護実践を進めるに当たり、発育・発達過程にある子供の心身の構造と機能、健康課題、病態の特徴を理解する。また、子供を取り巻く環境について理解する。	3.69	3.75	3.63		3.88	3.50	
一般目標	1) 心身の構造と機能及び発達過程について理解する。	3.59	3.50	3.69		3.63	3.56	
到達目標	①命を生むしくみ（人体の発生と遺伝、生殖系器官の構造と機能）と発達過程について理解している。	3.75	3.69	3.81		3.88	3.63	
	②命を維持するしくみ（呼吸、循環、代謝やホメオスタシスなどに関わる器官の構造と機能）と発達過程について理解している。	3.38	3.44	3.31		3.44	3.31	
	③身体を支えて動くしくみ（骨格、筋肉と神経系などの器官の構造と機能）と発達	3.34	3.38	3.31		3.56	3.13	
	④情報の受容と処理のしくみ（感覚器と神経系などの構造と機能）と発達過程について理解している。	3.13	3.13	3.13		3.38	2.88	
	⑤高次脳機能のしくみ（脳の構造と認知や行動などの機能）と発達過程について理解している。	3.00	2.88	3.13		3.25	2.75	*
	⑥身体を防御し適応するしくみ（内分泌、免疫、神経系などの器官の構造と機能）と発達過程について理解している。	3.16	3.13	3.19		3.38	2.94	
一般目標	2) ライフステージ各期の心身の発育・発達の特徴及び健康課題と疾病の特徴について理解する。	3.56	3.56	3.56		3.69	3.44	
到達目標	①ライフステージと発育・発達過程について理解している。	3.69	3.56	3.81		3.75	3.63	
	②子供に起こりやすい傷病について、その成り立ちや治療法について理解している。	3.22	3.19	3.25		3.31	3.13	
	③乳幼児期の心身の発育・発達の特徴、健康課題と疾病の特徴について理解している。	3.19	3.00	3.38		3.25	3.13	
	④児童期の心身の発育・発達の特徴、健康課題と疾病の特徴について理解している。	3.38	3.63	3.13	*	3.50	3.25	
	⑤青年期の心身の発育・発達の特徴、健康課題と疾病の特徴について理解している。	3.22	3.38	3.06		3.25	3.19	
	⑥成年期以降の心身の発達・加齢性変化の特徴、健康課題と疾病の特徴について理解している。	3.09	3.00	3.19		3.06	3.13	
一般目標	3) 子供の生活や取り巻く環境と健康との関わりについて理解する。	3.91	4.06	3.75		4.00	3.81	
到達目標	①個人の生活（栄養、運動、休養など）と健康との関わりについて理解している。	4.09	4.19	4.00		4.25	3.94	
	②子供の健康と家庭との関わりについて理解している。	4.13	4.31	3.94		4.38	3.88	*
	③健康の決定要因（物理的・化学的・生物学的・社会経済的環境など）について理解している。	3.69	3.75	3.63		3.81	3.56	
	④地域の教育、保健、医療、福祉などの関係機関について理解している。	3.69	3.81	3.56		3.75	3.63	
一般目標	4) 発達過程に応じた子供の支援について理解する。	3.88	4.00	3.75		4.13	3.63	*
到達目標	①身体構造や機能の課題から支援を必要とする子供とその発達過程に応じた支援方法について理解している。	3.56	3.63	3.50		3.69	3.44	
	②心理的、精神的な課題から支援を必要とする子供とその発達過程に応じた支援方法について理解している。	3.72	3.94	3.50		3.94	3.50	
	③社会的支援（養育環境など）を必要とする子供とその発達過程に応じた支援方法について理解している。	3.63	3.56	3.69		3.81	3.44	
Ⅱ群平均		3.53	3.56	3.49		3.67	3.39	+

$p < 0.1$: +, $p < 0.05$: *

表3【Ⅲ群】養護実践の方法の基礎的・基本的理解の各項目の平均値

Ⅲ 群	項 目	全体 n=32	養護教諭 n=16	以外 n=16	p	自信高 n=16	自信低 n=16	p
全体目標	養護実践を展開するために必要な知識と方法を理解する。また、基礎的な技術を身につける。	3.38	3.38	3.38		3.75	3.00	**
一般目標	1) 学校保健の意義をふまえた上で、学校保健計画作成の方法を理解する。	3.41	3.50	3.31		3.50	3.31	
到達目標	①学校経営計画と教育課程、学校保健計画及び保健室経営計画が関連するように立案することの重要性を理解している。	3.84	4.06	3.63		4.00	3.69	
	②学校保健計画を立案する方法を説明することができる。	2.97	3.06	2.88		2.94	3.00	
一般目標	2) 保健室経営の意義と目的をふまえた上で、保健室経営計画の作成方法を理解する。	3.53	3.88	3.19	*	3.75	3.31	
到達目標	①保健室経営における養護実践のプロセスを理解している。	3.22	3.31	3.13		3.44	3.00	
	②保健室経営計画の作成や評価について、内容と方法（疫学や統計を含む）を理解している。	3.47	3.63	3.31		3.75	3.19	
	③保健室の健康情報センターとしての役割を理解し、保健室経営について説明することができる。	2.97	3.19	2.75		3.06	2.88	
一般目標	3) 保健管理の意義と目的をふまえた上で、その内容と方法を理解する。	3.44	3.56	3.31		3.50	3.38	
到達目標	①健康観察の内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。	3.59	3.81	3.38		3.88	3.31	
	②健康診断の内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。	3.38	3.38	3.38		3.69	3.06	
	③疾病の予防と管理に関する内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。	3.28	3.38	3.19		3.50	3.06	
	④感染症対策に関する内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。	3.56	3.75	3.38		4.00	3.13	
	⑤救急処置の内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。	3.22	3.31	3.13		3.63	2.81	
	⑥学校環境衛生の内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。	3.16	3.31	3.00		3.38	2.94	
一般目標	4) 健康相談・保健指導の意義と目的をふまえた上で、子供と保護者への対応方法を理解する。	3.38	3.63	3.13	+	3.38	3.38	
到達目標	①健康相談・健康相談活動の内容と方法について理解し、基礎的な技術を身に付けている。	3.31	3.56	3.06	+	3.50	3.13	
	②保健指導の内容と方法について理解し、基礎的な技術を身に付けている。	3.53	3.69	3.38		3.69	3.38	
	③子供の健康課題を把握し、解決に向けた支援・指導及び助言に関する内容と方法を理解している。	3.19	3.44	2.94		3.44	2.94	
一般目標	5) 保健教育の意義と目的をふまえた上で、その内容と指導方法を理解する。	3.47	3.56	3.38		3.88	3.06	*
到達目標	①学習指導要領に示された各教科等の保健に関する内容と指導方法を理解している。	3.03	3.06	3.00		3.31	2.75	+
	②子供の生涯にわたる健康の保持増進に必要な保健教育の内容と指導方法及びその評価について理解している。	3.25	3.38	3.13		3.56	2.94	*
一般目標	6) 保健組織活動の意義と目的をふまえた上で、その内容と連携・協働の方法を理解する。	3.41	3.56	3.25		3.50	3.31	
到達目標	①チームとしての学校における連携・協働の方法を理解している。	3.47	3.44	3.50		3.69	3.25	
	②家庭や地域の関係機関との連携・協働の方法を理解している。	3.31	3.31	3.31		3.50	3.13	
	③学校保健委員会等の保健組織活動を活性化する方法について理解している。	2.97	3.13	2.81		3.19	2.75	
一般目標	7) 学校安全・危機管理の意義と目的をふまえた上で、その内容と方法を理解する。	3.16	3.25	3.06		3.25	3.06	
到達目標	①学校安全・危機管理に関する内容と方法を理解している。	3.22	3.31	3.13		3.38	3.06	
	②事故、事件や災害発生等の緊急時の対応・体制について理解している。	3.22	3.25	3.19		3.31	3.13	
Ⅲ群平均		3.32	3.45	3.19		3.53	3.12	+

p<0.1 : +, p<0.05 : *, p<0.01 : **

表 4 【IV群】養護実践の展開の理解の各項目の平均値

IV 群	項 目	全体 n=32	養護教諭 n=16	以外 n=16	p	自信高 n=16	自信低 n=16	p
全体目標	子供の実態に応じて、必要な知識、方法及び技術を統合して、養護実践を計画、実施、評価、改善するための能力を身につける。	3.06	3.06	3.06		3.25	2.88	
一般目標	1) 子供の心身に関する情報の収集と管理を行い、関係者と情報共有する意義と方法を説明できる。	3.53	3.69	3.38		3.88	3.19	*
到達目標	①子供の心身の情報を収集し、管理、共有する方法を説明することができる。	3.41	3.50	3.31		3.69	3.13	+
	②子供に共感的態度でかわかり、心身の情報等から子供の健康状態を把握することができる。	3.81	3.94	3.69		4.25	3.38	***
	③子供の心身の状況や背景、子供を取り巻く環境における課題を関係者と共有することができる。	3.84	3.88	3.81		4.06	3.63	
一般目標	2) 子供の心身の状態を根拠に基づいて総合的に評価し対応できる。	3.44	3.38	3.50		3.63	3.25	
到達目標	①心身の状態を総合的に評価し、緊急度・重症度を踏まえて対応することができる。	3.22	3.50	2.94		3.38	3.06	
	②判断や対応の根拠となる資料を作成することができる。	2.94	3.00	2.88		3.00	2.88	
	③個及び集団としての子供の心身の健康課題を、背景や影響する要因を踏まえて説明することができる。	3.16	3.38	2.94		3.38	2.94	
一般目標	3) 子供の心身の健康課題に応じて必要な指導や支援の計画を立案することができる。	3.22	3.31	3.13		3.38	3.06	
到達目標	①子供の健康課題や発達の課題に応じた個別の支援計画を立案することができる。	3.13	3.13	3.13		3.38	2.88	+
	②必要な指導や支援の計画を関係者と協議し、役割を調整する方法を説明することができる。	2.97	3.00	2.94		3.00	2.94	
	③個別の支援計画の修正や改善の時期や内容を評価することができる。	3.00	3.13	2.88		3.06	2.94	
一般目標	4) 対応する場面を想定し、関係者と連携・協働して指導や支援を展開できる。	3.28	3.44	3.13		3.25	3.31	
到達目標	①子供の健康課題に応じた対応について説明することができる。	3.22	3.44	3.00		3.38	3.06	
	②関係者と連携・協働して取り組む活動の内容及方法を説明することができる。	3.22	3.38	3.06		3.25	3.19	
	③人権やプライバシーに配慮した健康相談や保健指導の場面や方法を列挙することができる。	3.59	3.81	3.38		3.88	3.31	*
	④保健教育を推進するために働きかける対象や内容及方法を説明することができる。	3.16	3.31	3.00		3.38	2.94	
一般目標	5) 養護実践と学校保健及び学校教育の関係を理解する。	3.19	3.38	3.00		3.25	3.13	
到達目標	①学校保健目標、保健室経営目標と養護実践の関係を説明することができる。	3.16	3.38	2.94		3.38	2.94	
	②学校全体の保健管理及び保健教育を評価・改善するプロセスを理解し、説明することができる。	2.91	2.88	2.94		3.00	2.81	
一般目標	6) 養護教諭としての専門性を向上させる方法及び研究の必要性を理解する。	3.78	3.94	3.63		3.88	3.69	
到達目標	①観察した子供の状態、対応、保健指導等の内容を記録することができる。	4.00	4.31	3.69		4.25	3.75	
	②自らの養護実践を評価し、改善する方法を説明することができる。	3.47	3.69	3.25		3.69	3.25	
	③自らの養護教諭としての資質・能力を省察し、養護観を追究し、自己研鑽する内容及方法を説明することができる。	3.19	3.38	3.00		3.31	3.06	
	④養護実践を研究する意義と方法を説明することができる。	3.03	3.25	2.81		3.06	3.00	
	⑤養護学を構築することの重要性を理解している。	3.81	4.00	3.63		3.94	3.69	
IV群平均		3.32	3.46	3.19		3.49	3.16	ns

$p<0.1$: +, $p<0.05$: *, $p<0.001$: ***

4. 考察

「養大協コアカリ 2020」は、卒業時に目指す養護教諭としての資質・能力を、子供の健康課題について科学的根拠を基盤として、的確にアセスメントする力、多職種と連携・協働しながら、子供自身が問題解決できる能力形成を支援する力、子供の「生きる力」を育む資質・能力と設定している¹⁾。卒業時に目指す養護教諭としての資質・能力に到達するために必要な事項として、Ⅰ群「養護及び養護教諭に関する基礎的理解」、Ⅱ群「子供と子供を取り巻く環境の理解」、Ⅲ群「養護実践の方法の基礎的・基本的理解」、これらの群を統合した内容として、Ⅳ群「養護実践の展開の理解」を配置している。Ⅰ群を根幹にⅡ・Ⅲ・Ⅳ群へ深化するという理念で構成されている。

今回の調査結果を見ると、各群の平均値は、Ⅰ群 3.68、Ⅱ群 3.53、Ⅲ群 3.32、Ⅳ群 3.32 となっており、Ⅰ群「養護及び養護教諭に関する基礎的理解」、Ⅱ群「子供と子供を取り巻く環境の理解」と比較して、その積み重ねとなるⅢ群「養護実践の方法の基礎的・基本的理解」やⅣ群「養護実践の展開の理解」となると難しい傾向がみられた。

その中でも、Ⅲ群の到達目標の「③保健室の健康情報センターとしての役割を理解し、保健室経営について説明することができる。」「③学校保健委員会等の保健組織活動を活性化する方法について理解している。」、Ⅳ群の到達目標の「②判断や対応の根拠となる資料を作成することができる。」「②必要な指導や支援の計画に関係者と協議し、役割を調整する方法を説明することができる。」「②学校全体の保健管理及び保健教育を評価・改善するプロセスを理解し、説明することができる。」が全体的に低値であった。

また、養護教諭として仕事をしたいと思っている学生は、福祉関係や一般企業に就職する学生と比較して自信度や理解度が高いと考えたが有意な差はみられなかった。養護教諭として仕事をする自信がないから一般企業に就職するというのではないということが考えられる。

養護教諭としての自信度の高低で各群の項目を比較したところ、Ⅰ群からⅣ群の各群の全体の平均は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ群では自信高群は自信低群に比べて高い傾向がみられたが、Ⅳ群では有意な差はみられなかった。これは、Ⅳ群はⅠ群からⅢ群を統合した内容として配置されているが、Ⅰ～Ⅲ群よりも抽象度の高い到達目標で構成されているためだと考えられる。

現在、養護教諭の専門領域における主な職務内容については、中央教育審議会答申³⁾および学校保健安全法をふまえて、保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織活動、その他の6項目に整理されている⁴⁾。主な職務内容として、保健室経営、保健組織活動が明示され、学校保健活動の組織的対応の充実が求められている。このⅣ群はまさにこの学校保健活動の組織的対応の充実のための資質・能力と考える。本学の養護教諭養成課程で、この資質・能力をどのように身に付けていくかが今後の課題である。

来年度は、「養大協版コアカリ 2020」を活用して、養護教育実習の事前と事後で学生が自己評価を行い、養護教育実習での学びや資質・能力の育成についても評価したいと考える。

5. 結論

養護教諭としての使命感と児童生徒への愛情を深め、養護教諭としての資質・能力を向上させる意欲を持つとともに、児童生徒の健康課題を理解し、他者と協働して課題解決に取り組む資質・能力を身に付けることができているかを評価するために、「養大協コアカリ 2020」がどのくらい達成できているかを、教職課程修了時として教職実践演習（養護教諭）を受講している学生を対象に調査したところ、以下の結果が得られた。

1. 養護教諭として仕事をしたいと思っている学生とそれ以外で比較すると、「養大協コアカリ 2020」の全体の理解度には差がみられなかった。
2. 養護教諭としての自信度で比較すると、「養大協コアカリ 2020」のⅠ群からⅣ群の全体

の平均では、自信高群は自信低群に比べてⅠ・Ⅱ・Ⅲ群では高い傾向がみられたが、Ⅳ群では有意な差はみられなかった。

文献

- 1) 大川尚子ら：「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020 の開発－多様な学問体系の大学に活用できるコアカリキュラムの提案－」，学校保健研究 63 (2)，91-101，2021.
- 2) 日本養護教諭教育学会：養護教諭の専門領域に関する養護の解説集（第三版），10，2019.
- 3) 文部科学省中央教育審議会：「子供の心身の

健康を守り，安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」（中央教育審議会答申），2008. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo5/08012506/001.pdf

- 4) 日本学校保健会：保健室経営計画作成の手引（平成 26 年度改訂），9-10，2015.

謝辞

本研究の趣旨を理解し，快く調査にご協力いただいた学生の皆さまに心より感謝いたします。